



TITLE:

京大広報 No. 517

AUTHOR(S):

京都大学広報委員会

---

CITATION:

京都大学広報委員会. 京大広報 No. 517. 京大広報 1997, 517: 300-319

ISSUE DATE:

1997-10

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/209226>

RIGHT:

ファイル中には未許諾による非表示部あり.

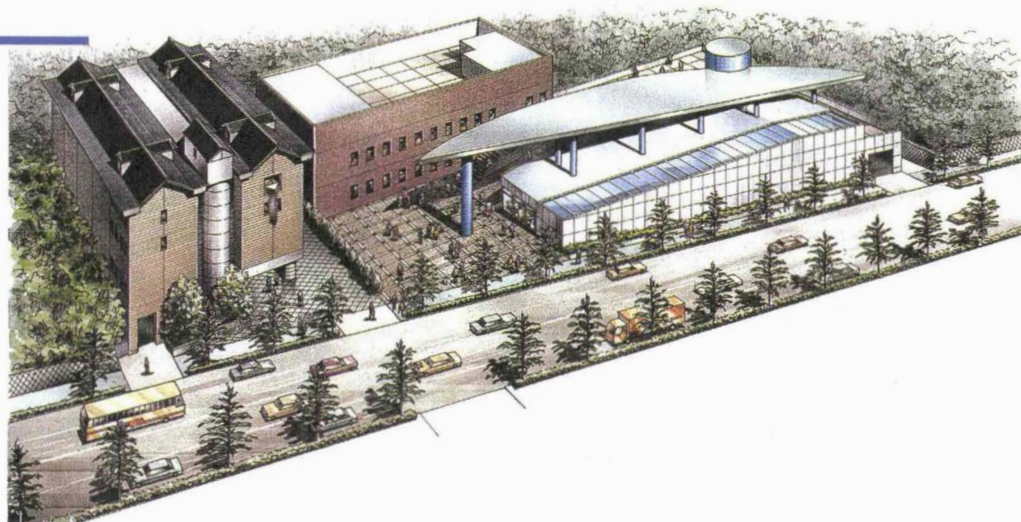


# 京大広報

No. 517

1997. 10

## 目次



総合博物館外観イメージ図

—関連記事本文306ページ—

### 〈大学の動き〉

井村総長のタイ王国、インドネシア共和国訪問 …301  
平成9年9月博士学位授与式 ……301  
ライデン大学及びオークランド大学との

学術交流 ……301  
部局長の交替等 ……302  
討論集会

「京都大学の教育を考える（第二回）  
—教養教育について—」の開催 ……302  
『京都大学の教育と学生生活  
—4回生の意見—』の刊行 ……302

### 〈医療技術短期大学の動き〉

医療技術短期大学部説明会 ……303

〈日誌〉 ……303

〈計報〉 ……304

### 〈紹介〉

総合博物館（続） ……306

### 〈文化交流〉

パリの暮らし ……三浦 智行 …308

### 〈保健コーナー〉

職場環境と健康 ……309

### 〈随想〉

健やかに老いる試み 名誉教授 倉知 三夫 …310

### 〈洛書〉

多様性の中での協力 ……宇津呂雄彦 …311

### 〈資料〉

国立大学協会の要望書

国立大学の施設の整備・改善について ……312

国立大学教官等の待遇改善に関する要望書 …312

「大学の教員等の任期制に関する法律」

の施行に関連する要望書 ……314

国立大学附属図書館の整備充実にに関する要望 …315

### 〈公開講座〉

京都大学春秋講義（秋季講座）の開講 ……316

京都大学市民講座の開講 ……317

エネルギー科学研究科公開講座

「エネルギーと社会・環境・科学」 ……318

総合情報メディアセンター公開講座（終了報告）

「教育とコンピュータ」 ……318

### 〈話題〉

国立七大学総合体育大会で本学が総合優勝 ……319

## 大学の動き

### 井村総長のタイ王国、インドネシア共和国訪問

井村総長は、8月31日から9月9日までの間タイ王国及びインドネシア共和国に出張し、以下の大学において、高等教育並びに教育・研究の実情を調査するとともに、学長及び関係者と意見交換を行い、将来の一層緊密な学術交流について討論した。

併せて、東南アジア研究センターのバンコク連絡事務所及びジャカルタ連絡事務所を視察した。

また、現地の京都大学卒業生及び関係者と懇談する機会を持った。

(訪問大学)

タマサート大学、カセサート大学、インドネシア大学、ガジャマダ大学

### 平成9年9月博士学位授与式

9月24日(水)午前10時30分から、京大会館において、総長特別補佐、各研究科長、総合人間学部長出席のもと、平成9年7月と9月を合わせた博士学位授与式が挙行された。

総長から、各授与者に対し学位記が手渡された後、総長の式辞があり、午前11時30分終了した。

本年7月の学位授与数は、課程博士29名、論文博士36名の計65名、9月の学位授与数は、課程博士20名、論文博士22名の計42名であった。

各研究科別内訳は次のとおりである。

研 究 科	平成9年7月			平成9年9月		
	課程 博士	論文 博士	計	課程 博士	論文 博士	計
	名	名	名	名	名	名
文学研究科	—	1	1	1	1	2
法学研究科	1	1	2	—	—	—
経済学研究科	—	4	4	—	2	2
理学研究科	5	—	5	4	2	6
医学研究科	10	6	16	4	2	6
薬学研究科	1	3	4	—	5	5
工学研究科	6	13	19	8	6	14
農学研究科	6	8	14	2	4	6
人間・環境学研究科	—	—	—	1	—	1

### ライデン大学及びオークランド大学との学術交流

本学とオランダ王国のライデン大学との「学術交流に関する一般的覚書」が平成9年3月6日に、また、ニュージーランドのオークランド大学との「学術交流に関する一般的覚書」が平成9年4月10日に交換された。

上記二大学との学術交流の推進については国際交流委員会の答申(関連記事『京大広報』No.363)にそって検討が進められ、このたび「覚書」を交換することとなったものである。

ライデン大学は、1575年に創立された人文・社会

科学系及び医学・自然科学系の各分野をもつ総合大学で、教員数は1,634人、学生数は約15,514人である。

オークランド大学は、1882年に創立された、人文・社会科学系及び医学・自然科学系の各分野をもつ総合大学で、教員数は1,175人、学生数は24,700人である。

《注》教員数及び学生数の出典は、THE WORLD OF LEARNING, 1997

## 部局長の交替等

### 大学院人間・環境学研究科長

足利健亮大学院人間・環境学研究科長の任期満了に伴い、その後任として豊島喜則大学院人間・環境学研究科教授（生物環境システム論講座担当）が10月1日大学院人間・環境学研究科長に任命された。

任期は平成11年9月30日までである。



豊島 喜則教授

## 討論集会「京都大学の教育を考える（第二回） －教養教育について－」の開催

昨年に続き、討論集会「京都大学の教育を考える（第二回）－教養教育について－」が、8月19日（火）～20日（水）の1泊2日の日程で、総長はじめ全学の教職員約200名が参加して開催された。

現在、本学では、本年1月に総長に提出された全学共通科目レビュー委員会の改善提案に基づき設置されたA群科目専門委員会、B・D群科目専門委員会、C群科目専門委員会、少人数教育・教養教育の在り方専門委員会において全学共通科目が抱える具体的な諸問題についての議論が行われているところである。

このような状況を背景に、今回は、一日目に同専門委員会の区分に対応して4つのグループが設けられ、各グループにおいて群科目専門委員会等での議論の紹介も交えながら全学共通科目の改善・充実のための方策について、討議が行われた。また、一日目の夜には「学生が考える教養教育」、「履修状況調



査からみた全学共通教育の現状と問題点」、「教養教育科目の内容の検討」の3つのイブニングセッションが設けられ、それぞれのセッションで夜遅くまで討議が続いた。二日目は、各グループ及びイブニングセッションから討議内容の報告を受け、その後質疑応答が行われた。

今回の討論集会で得られた成果が、今後の全学共通科目の改善に向けての検討に生かされることが期待される。

## 『京都大学の教育と学生生活－4回生の意見－』の刊行

このたび、『京都大学の教育と学生生活－4回生の意見－』が刊行された。この冊子は、全学共通科目レビュー委員会に設けられた調査小委員会が、昨年10月に本学に在籍中の4回生を対象に「京都大学の教育についての4回生の意見」と題するアンケート調査を実施し、その調査結果をもとにまとめたものである。

本調査は、京都大学で受けた教育と、その間の学生生活に関して総括的な問いかけを行ったものであ

り、その調査結果をみると学生が本学で受けた教育と学生生活への満足度、また、学部ごとに学生の学習、生活の仕方、意識のあり方が窺われる内容となっている。この冊子は、既に各部局の教官に配布済みである。

今後、この調査結果が各学部の教育の改善に向けた取組みに活用されることが期待される。

（全学共通科目レビュー委員会）



## 医療技術短期大学部の動き

## 医療技術短期大学部説明会

医療技術短期大学部では、7月22日（火）午後1時30分より5時まで、本短期大学部についての説明会を開催した。

説明会には高校生231名、高校進路指導教諭14名の参加者があった。

説明会では、まず京都教育文化センターにおいて、参加者全員に本短期大学部の特色、入試概要、各学科の教育内容を、資料及びスライドを用いて説明した。次に学内施設見学として、6グループに分けて、約1時間学内見学を実施した。最後に、各学科ごとに分かれての個人相談を行い、参加者と教官との懇談の機会を設けた。また、学生生活や入試に関する一般的な相談にも応じた。

参加者の93.1%がアンケート調査に応じ、その内



の99.5%よりこの説明会が参考になったとの回答を得た。

（医療技術短期大学部）

## 日誌

1997年7月1日～8月31日

7月4日 同和・人権問題委員会

8日 評議会

9日 防火委員会

〃 環境保全委員会

11日 オーストラリア オーストラリア大学  
Fay Gale学長連盟理事長他1名来学、総長特別補佐及び関係教官と懇談

12日 ミャンマー連邦 ミャンマー教育省  
Than Nyun副大臣他1名来学、総長特別補佐及び関係教官と懇談

15日 総長、日米医学協力委員会出席及び高等教育・学術研究機関における医学教育・研究の現状に関する調査のためアメリカ合衆国（メリーランド州ベセスダ市）を訪問（20日まで）

〃 平成9年度京都大学技術職員研修（第18回）（17日まで）

28日 連合王国 グラスゴー大学

Robert Miles社会学部社会学科長他1名来学、総長及び関係教官と懇談

8月19日 討論集会「京都大学の教育を考える（第2回）－教養教育について－」（20日まで）

31日 総長、タマサート大学外3大学における高等教育並びに教育・研究の実情調査と視察のためタイ王国及びインドネシア共和国を訪問（9月9日まで）



**訃 報****南 勲** 名誉教授

本学名誉教授 南 勲先生は、7月9日逝去された。享年70。

先生は、昭和26年京都大学農学部農林工学科を卒業後、農学部助手、同助教授を経て、同44年同教授に就任、農業工学科水利工学講座を担当、平成4年停年により退官され、京都大学名誉教授の称号を受けられた。

本学退官後は、近畿大学教授に就任されていた。

先生は、水利工学、農業水利学を中心とする広範な研究領域で、数多くの優れた研究業績を残された。特に淡水湖化に関する研究では、独創的な除塩・水質改善理論を提唱され、この分野での第一人者として活躍された。また、溜池の創築による農村開発に関する研究では、我が国の瀬戸内海周辺に見られる

溜池灌漑技術を東北タイの少雨・低生産性農業地帯に移入し、溜池の多目的利用による農村の経済発展効果について総合的な視野から研究を推進され、多年にわたる現地調査等を通じて、その有効性を実証された。この功績により、平成7年、タイ王国チュラロンコーン大学より名誉経済学博士の称号を受けられた。

また、先生は、農業土木学会理事、未来農業国際研究財団常務理事、日本国際雨水資源化学会会長、国際雨水資源化システム学会副会長等を歴任され、学会・学術の発展に尽くされた。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

(大学院農学研究科)

**小川 隆三** 名誉教授

本学名誉教授 小川隆三先生は、7月11日逝去された。享年68。

先生は昭和29年京都大学医学部を卒業、京都大学医学部附属病院副手、保健診療所助手、医学部講師、助教授を経て、同61年保健管理センター教授に就任、平成4年停年により退官され、京都大学名誉教授の称号を受けられた。この間昭和52年5月から保健診療所長、同61年4月から保健管理センター所長として、学生および職員の健康管理に寄与された。また、脾臓病、内分泌疾患を専門分野とし、甲状腺機能異常とビタミンB<sub>1</sub>代謝の関係に早期から着目、先駆的な研究を行われた。

退官後は、彦根市民病院長として地域医療に尽力された。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

(保健診療所)

## 磯村 哲 名誉教授



本学名誉教授 磯村 哲先生は、8月23日逝去された。享年82。

先生は、昭和14年京都帝国大学法学部を卒業、同大学法学部助手、助教授を経て、同26年教授に就任、同53年停年により退官され、京都大学名誉教授の称号を受けられた。この間、民法第一講座、同第二講座、同第三講座、法社会学講座を担当して法学教育に貢献されると共に、京都大学評議員を務められて、大学行政にも寄与された。

先生は、近代法の歴史的な性格及び社会的性格を法思想的な分析をも踏まえて法社会学的に解明し、その成果の上に立って我が国における近代法の性格を「社会法学」という新しい法観として析出された。エールリッヒ、ウェーバー、ルソー等についての一

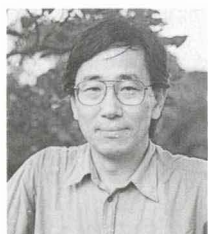
連の研究に、それが結実しており、いずれも我が国の法社会学を發展させた画期的な労作と評価されている。また民法学の研究においては、法の歴史的社会的基礎に照応して法思想、法理論を分析するという態度を貫かれた。

このような学問的業績が認められて、昭和61年12月に日本学士院会員に選出され、同62年11月3日に勲二等旭日重光章を受けられた。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

(大学院法学研究科)

## 井上 民二 生態学研究センター教授



生態学研究センター教授 井上民二先生は、マレーシアサラワク州で飛行機事故のため、9月6日逝去された。享年49。

先生は、昭和46年京都大学農学部を卒業し、同大学院農学研究科で学ばれた後、京都大学農学部助手、同講師を経て、平成3年4月生態学研究センター教授に就任された。

先生は昆虫生態学者としてスタートされ、アブの移動分散様式やカマキリの行動の数理解析、ハリナシバチの社会構造の研究で大きな業績を残された。センターの熱帯生態学研究部門教授に就任後、先生は地球最後の秘境である、熱帯林の林冠部の研究に取り組み、樹木の一斉開花や、花粉の受渡しを巡る樹木と昆虫との共進化の研究を大きく進展させた。

その成果は多くがまだ公表されていないが、すでに高い国際的評価を受けている。主な編著に『花に引き寄せられる動物－花と送粉者の共進化』、『昆虫社会の進化』などがある。

また、先生は、西太平洋アジア地域における生物多様性研究を推進するために、研究交流の国際組織(DIWPA)の構築と、室内実験研究者や理論家の多様性研究への参画を容易にする国際共同利用野外研究施設の充実に取組むとともに、国際生物学セミナーを開催することによって、国内のみならずアジア地域の有為の人材の育成に力を注がれた。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

(生態学研究センター)



## 紹介

## 総合博物館（続）

大正3年に文学部陳列館が設置されて以来全学の願いであった京都大学総合博物館が本年4月1日に発足に至った沿革については前号で紹介した。教官9名、事務官4名の組織は発足以来、文化史資料を納めた旧文学部博物館に比肩される自然史・技術史資料関連の新館計画策定を中心に新博物館の立ち上げに全力を注いでいる。予定どおり2000年に完成すれば、文化史・自然史・技術史をカバーし、「人類の財産ともいうべき学術資料の保全」、「学術資料を使った新たな研究や教育の支援」、「知的生産の成果の世界への発信」という業務をこなせるわが国初の本格的大学博物館となる。

学術審議会による大学博物館設置勧告、また最近も報道機関にしばしば取り上げられるなど国家的コンセンサスはもとより市民の期待も次第に高まり有り難く思っている。ただ、自然史、技術史資料が持つ意味やそれらを収蔵する博物館を設立する意義について、学内の諸賢に詳しく説明する機会は今までなかった。そこでこの際、もう一度総合博物館の役割について説明させていただき、ご支援をお願いすることにした。総合博物館は、文化史分野をも含んだ組織であるが、今回は、以上のような趣旨から自然史・技術史関係の記述に重点の置かれることをお許しいただきたい。

総合博物館は、学術標本資料を重視した博物館である。京都大学には、国宝・重要文化財などの文化史資料はもちろん、故木原均博士による7,000品種以上のコムギコレクションなどの国際的に著名なコレクション、生物や化石の新種を見つけたとき「戸籍原簿」となる「タイプ標本」、エゾカワウソなどすでに絶滅した多くの生物など、膨大な学術標本資料が所蔵されている。総合博物館は、これらの人類共通の財産とも言うべき標本資料を適正に収蔵・保存・管理し、次世代に伝える任務を負う。また、多数の生物資料の保全は、わが国が「生物多様性に関する条約」によって国際的に負う生物多様性についての実物資料の保全の義務の一端を担うことにつながる重要な業務である。

しかし、標本資料は、単に受け身に保全を待つだ

けのひ弱な存在ではない。技術革新によって髪の毛一本からでもDNAを抽出、遺伝子情報を読めるようになった今、長年にわたり収集された生物標本資料は有用遺伝子型発掘のための巨大な遺伝子資源へと変貌した。また、多種の鉱物標本は、新セラミクス、半導体など新素材の研究材料としても脚光を浴びている。さらに化石や堆積物に記録された同位体比変動は、地球環境の将来予測に不可欠な、過去の地球環境変動についての情報源として熱い視線が向けられている。「学術資源」としてこのように新しい価値を主張し始めた学術標本資料を、内外の研究者に迅速に提供して、研究を支援する役割を果たすことは、総合博物館の重要な任務の一つである。

京都大学では、1000年前の東大寺古文書や最近有名となった5億年以上前のバージェス頁岩化石動物群を初めとする実物教材を使った実習が伝統的に行われてきた。このような知的贅沢が許される大学は国内外でもそうぞらにはあるまい。総合博物館が整備された暁には、多様な標本資料の検索と貸し出しが容易となり、実物教育はさらに充実するだろう。また、館では、様々な展示を行う予定である。ここでは、京都大学で標本資料を使ってなされた優れた研究について、その研究の発想されたプロセス、さらに将来の研究にゆだねられた課題をも提示し、学生諸君の知的好奇心を刺激し、独創的・創造的研究の創成を触発するつもりである。

科学が専門化するとともに人類に役立つ研究もどんどん難解なものになっている。そこで、総合博物館では、公開展示や公開講座なども今まで以上に行い、最先端の研究成果を一般にもわかりやすい形で紹介し、社会に開かれた京都大学の窓口としての役割を果たす予定である。とりわけ退官された教官の方々のご支援を得て、最良の効果をあげたいと密かに念じている。例えば、「雨の日は博物館へおいで」というようなキャッチフレーズで京都に大勢訪れる修学旅行の中・高校生の何%でもよいから博物館に来てもらおうとする。そこで退官教官の先生方に、標本資料を前に御自分の研究成果を時には逸話や失敗談などを交えてわかりやすく説明していただければ次代をになう青少年の理科系離れの阻止に大きく寄与するだろう。折しも京都大学では、早期少人数教

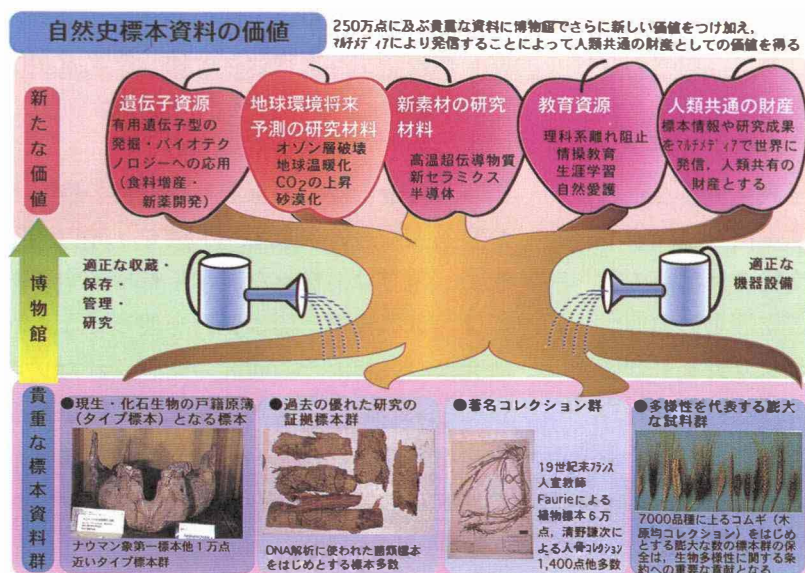


育の実施可能性についての議論が始まっている。向学心を涵養するのであれば、博物館を舞台とした退官教官の先生方の奮闘によって大学入学前の生徒に向学心の火種を植え付けたとしても早すぎることはないだろう。

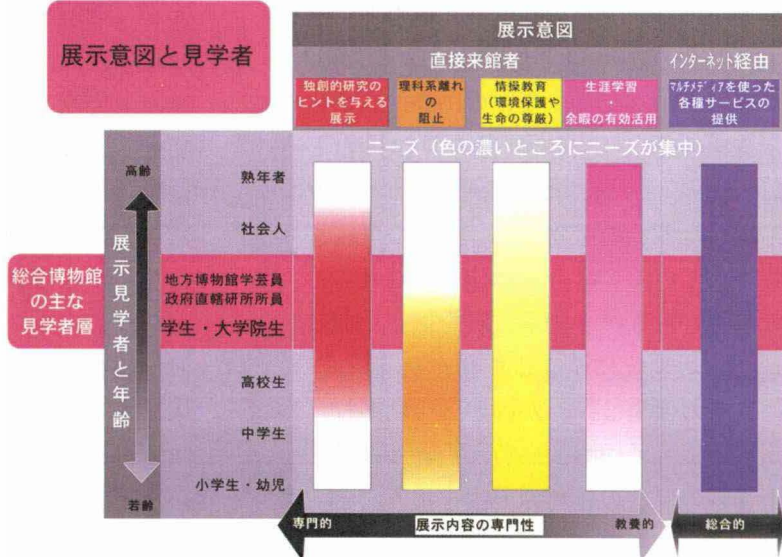
また、インターネットを初めとするネットワークを通じて、来館者だけでなく、広く世界に向けた情報発信を行っていく予定である。発信情報には、研究者向けの専門的標本資料データベースから、ホームページまでが含まれる。すでにホームページは開設されている (<http://www.museum.kyoto-u.ac.jp/indexj.html>でアクセス可能)。まだ200画面程度の規模ではあるが、毎日平均数百件のアクセスがあり、社会一般の総合博物館に対する関心の高さに

に勇気づけられている。

京都大学が100年にわたり収集した標本は、今貴重な「学術資源」として脚光を浴び始めている。それは遺伝子資源や新素材研究材料といった実用的な側面から、将来予測といった地球環境の未来に関わる問題の解決のための研究材料として、またそれにもましてこれから科学を志す学生や青少年に夢を与える実物教材として、物心両面に関わる「資源」なのである。ようやくにして、博物館組織は発足した。あとは、一日も早く適正な規模の施設・設備の整備が急がれる。幸い各方面の協力を得て表紙図のような博物館の企画プランがすでにできあがり、反響を呼んでいる。



### 展示意図と見学者



(総合博物館)

## 文化交流

## パリの暮らし

三浦 智行

1995年8月から1997年6月までパリのコシャン分子遺伝学研究所でエイズウイルスの研究に専念する機会を得た。この研究所は、各ユニットに至るまで例えばパリ第7大学（文部省）の教授の元にINSERM（厚生省）の研究部長やCNRS（科技庁）の研究者や技術職員がいるというように非常に入り組んだ組織であり、いかにも融通の利くフランスらしい。ユニット内の国籍も軽く十カ国を越え国際色豊かであるが、会話は大半が仏語で、英語が辛うじて理解できる程度の私は肩身が狭かった。研究所の規模や設備の面ではむしろウイルス研究所の方が勝っているほどだが、研究支援スタッフが充実していて気持ちよく研究に集中できる環境が整っていた。

ユニットの教授は、以前客員教授として2、3カ月日本に呼ばれたことがあり、しかも、息子に日本人のガールフレンドがいることもあって親日家だった。そして、“Bonsoir”は「今晚は」だと理解している。ところが、フランスでは、夕方別れる時にもBonsoirを使う。かの教授は、夕方帰るときなど、しまりかけのエレベーターのドアのむこうで、こちらを見据えてぺこんと頭をさげ、「コンバンワ」と言いながら去って行った。

生活の方では最初の半年程、単身でパリ南部にあるCité Internationale Universitaire de Parisの日本館とイタリア館に住んだ。広い敷地の中に各国の宿舎が木々に囲まれゆったりと立ち並んでいて、美しい公園の中に住んでるようだった。格安とはいかないが手頃な料金で、研究者は入居しやすい。パリで単身または夫妻だけで住む方は検討に値すると思う。

パリのスーパーマーケットの魚はあまり新鮮ではないが、専門の魚屋では新鮮な魚も手にはいる。マグロは100gが90円程でまな板の上にのせて、頭の方から順番に3cm幅くらいの輪切りにして売っている。そして、もったいないことに、彼らは、我々が大口と称して珍重する部分は最初に内臓と一緒に捨ててしまう。それでも早めについて、前の部分を買えば、輪切りの中に中トロくらいは入るので、時々朝に買い物をして堪能した。サバもいい。味噌



煮もいいが、私はシメサバが好きだ。フランス人にサバをご馳走しながら、「Ça va?」などといって一人で悦に入っていた。

半年後家族を迎えるため、大きめのアパートマンに引っ越した。70平方メートル4部屋家具付きで7500F（15万円程）。パリの15区にしては安い、かなり古く、冷蔵庫は小さくてドアが壊れてはずれ、電気コンロはなかなか熱くならず、ゴキブリは沢山いて大変だった。冷蔵庫は大家との交渉で新しく大きいのを買ってもらい（家族写真を見せて拙い仏語で「私の子供は良く食べるんです」と訴えたのが効いたか）、ゴキブリの巣を見つけて一網打尽にして何とか家族が来る前に人並みの暮らしができるようになった。パリのゴキブリはこちらでみかける大きくて黒光りしてて素早くて恐ろしいことに人に向かって飛んでくるようなのにくらべると、小柄で（親でも1～2cm）色も淡くて動きもとろいのでゴキブリが苦手な私でも何とか耐えた。

日本のアニメやTVゲームは、フランスの子供にも大人気だ。最近のアニメの主人公は髪の毛や目の色などカラフルで彼らにとっても違和感が無いのだろう。研究部長らの家族を招いたときなど、子供達はすぐTVゲームを通して仲良くなった。日本から持って来たゲームカセットの大半はフランスでも売られていて、言葉の壁を越えて共通の認識が出来ている。我々が専門用語と共通のバックグラウンドのおかげでつたない語学力をカバーしてコミュニケーションできるのと同じだ。

写真は、研究部長らの家族とパリ郊外のAsterix Parc遊園地に行ってきたときのもの。右奥に立って白いジャケットを着ているのが筆者である。

（みうら ともゆき ウイルス研究所助手）



## 保健コーナー

### 職場環境と健康

最近、医療施設において医療従事者の集団感染症のケースが目立っている。例えば、岡山県の某病院での病原性大腸菌O-157の集団発生、奈良市の国立病院における医師1人、看護婦8人など合計9人が肺結核に感染、発症したケースや、仙台市の某病院では医療従事者を中心に11人が結核に感染し、20歳代の看護婦1人が死亡するという痛ましい結果となっている。結核感染の場合の特徴は、感染者の大半が20歳代によって占められていることである。つい最近も横浜市内の病院で医師、看護婦、検査技師など、合計7人が結核に罹患したと報じられている。

今年も病原性大腸菌の感染は、全国的に散発的ながら多くの発生がみられている。多数の人に食事を供給する仕事に従事する人たちについては、食中毒の流行する時期のみならず、一年中検便をおこなって保菌者の発見に努めているが、昨年の病原性大腸菌O-157による食中毒の大流行以降、本学でも自主的に検査の精度を上げて検査する病原菌の種類を広げた結果、結構いろいろな菌が見つかった。その都度検出された菌の病原性、毒性の強さ、過去の流行事例の検索などを行わなければならない。幸い多くの場合は毒性のあまり強いものはなかったが、しかるべき事後措置が必要となった。

新聞報道によれば、大阪府が1993年から95年の3年間に、府内の22の保健所に報告された結核患者数から、看護婦が一般人と比べてどの程度肺結核に罹患しやすいかという、いわゆる「相対危険度」を割り出している。20歳代では一般人より3.05倍発病の機会が高く、30歳代が最も高く4.91倍であった。40歳から60歳代までは1.38倍から1.58倍であり、全体では2.65倍も罹患しやすいという。昨年実施された沖縄県の同様の調査でも、20歳代で一般人より6.37倍、全体で2.31倍という結果が得られている。最近の若い人は結核に対して未感染者が多く、免疫力が低い人が多い。本学でも新入生の定期健康診断の時にツベルクリン反応の陽転の具合や、BCG接種の有無を必ず聞いているが、満足な答えが得られるのはまれである。ほとんど関心が無いというのが現状である。

世界的にみても結核は増加しており、年間800万

人の患者が発生し、300万人が死亡している。我が国での結核による死亡は、年間約3千人ではほぼ横ばいであるが、新しく感染する人は4万人を超えている。

定期健康診断の受検率が低いのは医学部の学生であり、病院の教職員である。健康にたいする自己管理意識が乏しい人が増えてきているという印象をうける。

針刺し事故は、日常的に何時起こっても不思議でない。厚生省が発表したエイズ診療の拠点病院での調査によれば、昨年一年間に針刺し事故は約3900件起きたという。幸いエイズに感染した人はいなかったようであるが、C型肝炎ウイルスの感染は7件を数えたという。全国的にみればこれは氷山の一角にすぎないと思われる。保健管理センターでは、毎年このような病気に感染する恐れのある医療関係者にはB型肝炎にたいする抗原・抗体検査を行っているが、C型肝炎については実施していない。医療従事者に注意していただくしか仕方がないというのが現状である。

このほかに、情報機器（VDT）、騒音や放射線に基づく健康管理の対象者は、毎年増加している。問診票によるスクリーニングで症状を有する人を呼び出して専門医が診察するわけであるが、これがなかなか面倒である。例えば中年以降の人で、「最近目がかすむ」、「風邪を引きやすくなった」という項目がチェックされている場合、経験の豊富な専門医の判断を仰ぐわけである。このような場合、年齢や定期健康診断、その他の特別健康診断の成績などトリックさせて判断する場合もある。年齢的なもので心配がないというように判断が甘くなると手遅れという事態も起こりうるし、逆に厳しくしすぎると呼び出しを受けて精密検査の対象になり、検査を担当する立場からいえばその人数が増えることになり、神経を使うところである。問診票に記入する場合には、よく考えて記入するようにお願いしたい。

（保健管理センター 森下玲児）





## 洛書

## 多様性の中での協力

宇津呂 雄彦

最近、国際交流が益々盛んになり、私達にも外国人と接触の機会が増えている。このような中で私が最近考えたことを記してみたい。

これまで何度か欧米で開催される研究集会等に参加させていただいたが、研究発表プログラムに加え親睦プログラムがある。親睦プログラムでは、とりわけ主催者世話人から個々の参加者の事情や気持ちを汲んだ温かい心配りを受けることが多い。経験の乏しい参加者もパーティをエンジョイできるよう、丁寧に誘ってくれる。このようなもてなしのお返しということで、昨年私達が当地で国際シンポジウムをお世話した際も、出来るだけ参加者相互が心おきなく交流出来るよう世話掛全員が心を砕いたところ、いささか驚かされたのは、欧米の参加者がこちらの気持ちに直ぐに反応する事であった。結果の善し悪しにこだわらずに我々の努力を判ってくれて、「あれは良かった」と直ぐに言ってくれる。例えば、会議の初めに或るメッセージを収めたテープの再生がうまく行かなかったことでさえ、「あれで皆がリラックスできたから良かった。」となる。もっと日常的には、西欧の町や大学構内で見知らぬ人とすれ違っても気持ちの良い挨拶が送られてくることが多い。

私は、欧米の精神には、お互いの表面上にたとえ違いがあっても、共通の立場で出来るだけ協力しましょうという意志を積極的に表すこと、先ずは敵対者ではありませんという表現を発することが共通の基盤の出発点であるという意識が流れているように思う。

欧州を旅行すると、千数百年前は周囲を強固な城壁で囲まれていた古い町を多く見かける。今も一部に残る城壁は格好の観光対象である。彼等の祖先が、当時のローマ軍から自らの安全と富を守るために、皆で力を合わせて築いた物らしい。皆で力を合わせるといふ協力の精神は、調和を乱すものを拒絶し、異端者集団から自らを守るためにも発揮されたと感じた。数年前にドイツのある空港に着いた時、入国審査場に係官がなかなか現れず行列が出来て待っていたところ、後から来た人相の少々良くない男が4

人一番前に割り込んだ。その後に並んでいた10人程の日本人は皆黙っていたが、私の前の一人の欧米人は男達に「それは良くない」と何度も忠告した。やがて係官が現れ、男達は別室に連れて行かれた。彼の欧米人は「この様なき日本人も忠告をするべきだ。」と私に言った。欧米の精神には、国や立場が異なっても出来るだけ共通の基盤を持って協力し、これを乱すものを拒絶しよう、という共通認識があることを感じた。

私達日本人の精神の根底には、ことさら積極的に協力の意志を表さなくても、また多様性の中で共有すべき良識に背を向ける人達をあえて疎外しなくても、いずれ皆同じ考えで協力できるだろうという信仰のようなものがないだろうか。欧米と文化の異なる我々がより有効な国際協力を進めるためには、日本文化の優れたところを認識しつつ、多様性の中の協力という精神に基づく欧米社会の良識を共有することによって、一層強い信頼で結ばれた真のパートナーシップを培うようにしなければならないと思う次第である。

(うつろ まさひこ 原子炉実験所教授)

## 資料

## 国立大学協会の要望書

平成9年6月30日  
国立大学協会  
会長 井村 裕夫

## 国立大学の施設の整備・改善について

国立大学等の予算につきましては、厳しい財政事情の中で、種々ご配慮頂いていることに感謝を申し上げます。とくに科学技術基本法の制定を受けて科学技術基本計画が策定され、研究費が大幅に増額されましたことは、研究者に明るい希望を与え研究にはずみがつくものと期待しています。

しかしわが国の科学技術の一層の発展を図るためには、科学技術基本計画にも指摘されているとおり、施設・設備の改善が不可欠であります。とくに国立大学にあっては、昭和55年から平成4年までの間、施設設備費が著しく抑制されたため、新設大学及び統合移転中の大学を除いては建物の新営はほとんど行われず、著しく老朽化、狭隘化が進みました。平成4年以降補正予算によって施設はある程度改善されましたが、なお老朽建物が多く、不足面積も412万平方メートルに達しています。このことは国立大学の教育・研究に大きい影響を及ぼしています。講堂や実習室は老朽化、狭隘化が進み、新しく導入されつつある小人数教育のための施設はほとんどない状態で、教育のための諸施設は公私立大学に比し著しく劣る状態です。また研究の面でも研究者、大学院学生などが研究する場所に困る状態となっており、折角増額された研究費が生きない状態となっており、施設の整備は国立大学にとって喫緊の課題となっています。

しかも、平成9年度には施設整備費は平成8年度より減少し、私どもは大きい不安を抱いています。

現下の厳しい財政状況は十分に理解されるところでありますが、学術の進歩なくしてわが国の未来がないことも確実です。とくに科学技術発展のための緊急の課題は、いま施設の改善であります。このため平成10年度の予算において、教育・研究の施設の整備・充実が是非図られるよう要望するものであります。

平成9年7月9日  
国立大学協会会長  
井村 裕夫

## 国立大学教官等の待遇改善に関する要望書

国立大学教官等の給与等の待遇改善については、人事院をはじめ関係機関の特段の配慮を得て改善がなされてきたところであり、関係各位のご努力に対して深く感謝する次第であります。

いうまでもなく、近年、教育改革の問題が焦眉の国家的課題とされ、大学についても、教育・研究の充実整備が課題となっております。この課題に応えるうえで、まず何よりも大学自身がその教育・研究体制の改革に取り組むことが必要であり、各国立大学が自己点検・自己評価を実施し、それを自らの大学の改革と活性化の契機とすべく努力しているところであります。

それとともに、大学の質的向上を図るには、その担い手である大学教官等に有為な人材を確保することが基本的前提条件であり、それを充たすためには大学教官等の待遇改善を図ることが一つの必須要件であります。また、平成7年11月15日施行、公布された「科学技術基本法」では、国は、研究者等の職務がその重要性にふさわしい魅力あるものとなるよう、研究者等の適切な処遇の確保に必要な施策を講ずるものとしているところでもあります。

しかしながら、それはいまだ十分であるとは言えない状況にありますので、さらに以下の諸点につき、ここに重ねて強く要望する次第であります。

## 記

1. 教育職（一）の俸給水準の引上げを行う等を含め俸給体系を是正すること。

大学は高等教育および学術研究を推進・発展させる中心的存在として社会の付託に応えて、その任務を果たしている。科学技術の著しい進展と国際化の時代にあつて、その責務は益々増大しているところである。そのときにあたって、大学の教学の中心の担い手は大学教官であり、教育・研究について絶えざる情熱と高い能力を有する優れた人材を擁することは大学の根本であることに鑑



み、その俸給をその職務と責任に見合う水準に引き上げるよう特段の配慮を強く要望する。特に近年、国立大学の教官の給与水準が民間企業研究所や私立大学のそれを大幅に下回っている実態が人材確保の障害の要因ともなっていることに配慮しその急なる改善が待たれる。

また、助手について高校教諭の給与を下回る実態や教務職員の給与の頭打ち等の問題があり、これら職員の給与の格差是正を図る。

なお、以上の俸給水準の引上げと同時に特に中堅教官の給与配分について改善するとともに、現行の昇給延伸制度についても、教官の職の高学歴による高年齢就職等による特殊性に着目してその年齢の引上げを図る。

2. 部局長（学生部長、事務局長等を含む。以下「部局長等」という）について指定職の完全適用を図ること。

部局長等及び教育、研究の功績顕著な教授に対する指定職の適用拡大については改善が図られつつあるが、まだ十分な状況とはいえない。指定職制度は、特定の職務就任を条件に適用するのが本来の趣旨であることを踏まえ、部局長等については、その在任期間中はすべて指定職俸給表が適用できるよう措置する。

また、特に教育、研究の功績顕著な教授に対して指定職俸給表の適用をさらに拡大する。

3. 管理職手当の適用対象の拡大と増額を図ること。

近年、大学における管理運営の職責が益々重くなりつつある実情に鑑み、全学段階の委員等の学内教育行政の要職にある者について、管理職手当支給の途を開くよう配慮する。

なお、部局長等について指定職の完全適用を前項で要望しているところであるが、指定職が適用されるまでの間、引き続きその増額を図る。

4. 大学教官特有な職務に見合う手当として「大学研究調整額」（仮称）の新設すること。

大学教官は、高度の専門教育を行うばかりでなく、進展極まりない学術の研究について一定の業

績を常に要請される。そのため、各種学会活動や独自の情報の収集等多様な教育・研究活動を遂行することが必須となっている。

しかしながら、このような多様な教育・研究活動に際して、自費から支出する研究費が少なくなることが、当協会財政基盤調査研究委員会が行った全国調査結果により明らかになっている。

この特別な経費負担に対する措置として「大学研究調整額」（仮称）の新設を図る。

なお、職務の特殊性に基づきすでに支給されているものとしては、義務教育教員には「教職調整額」、医師等には「初任給調整手当」等がある。

5. 夜間主コース担当教官に特別な給与措置を講ずること。

主として夜間に授業を行う大学・学部の教官は、昼・夜両コースの教育を担当しており、その勤務形態は特殊なものである。

また、夜間主コースでは主として社会人学生を対象としており、教育上多様な対応が必要である。

これらのことを考慮し、夜間主コース担当教官に特別な給与措置を講ずること。

6. 教育・研究支援職員等の待遇の抜本的改善を図ること。

当協会は、かねてから大学特有の専門職である技術職員等の教育・研究支援職員の抜本的な待遇改善を要望し、「専門行政職俸給表」の適用を切望してきたが、これら職員の現状が同俸給表を適用できる状況に置かれていないとされ、その適用が見送られてきたところである。

しかしながら当協会としても、教育・研究支援職員の在り方について、先に、各国立大学に対し、教室系技術職員の官職の整理と資質の向上を図るため、組織化および研修等についてその実現方を要請し、現在までに職員規模で相当数が組織化され、また、多くの大学において多様な研修が行なわれている。

この結果、「専門行政職俸給表」への移行のための条件が整った状況を踏まえて、当協会は第97回総会において専門行政職俸給表への円滑な移行を行うため、「教室系技術職員の専門行政職俸給

表適用審査基準」を策定し、関係各方面にその実現方を要望してきたところであるが、当面、具体化の第一歩として、これら職員について専門職としての位置付けを明確にし、行政職（一）俸給表の中で一層の待遇改善を図ることを要望する。

また、大学における教育・研究支援職員の教育・研究に果たす役割は大きく、かつ不可欠なものであり、俸給表の種類にかかわらず、これら職員の俸給をその職務と責任に見合う水準に引き上げるよう措置する。

#### 7. 大学の中堅職員（事務系）の待遇改善を図ること。

大学においては、事務長、補佐、係長等の定数が固定されており、豊富な職務経験、職務遂行能力を持つ適任者でありながら、昇任・昇格が限定されるために俸給の上で格差を生じている。このことは、大学の中堅職員等に職務遂行意欲を欠く原因ともなり、ひいては大学運営に重大な影響を及ぼす結果となりかねない。

また、特に近年教育研究の国際化に伴う国際学術交流や留学生受入れ、大学院の整備充実、教育研究システムの多様化、複雑化への対応等高度の専門性を要する新たな業務が激増している。

よって、引き続き専門職制度を一層拡大するとともに、上位の級別定数について特段の措置を図る。

#### 8. 看護職員の待遇改善を図ること。

医学・医療の進展に寄与する診療、教育、研究の場であることを使命とする大学病院において看護職員に課せられた任務は極めて高度化、専門化しており、その役割は重要なものとなっている。

また、看護婦等の人材確保の促進に関する法律が制定され、待遇の改善が図られてきているが、まだ十分とはいえない。

看護力の強化は、大学病院の運営にとって不可欠の課題であり、初任給を含む給与水準の引き上げを引き続き図る。

また、看護職員の勤務形態の特殊性等に配慮し、勤務環境の改善を図る。

平成9年8月4日  
国立大学協会  
会長 井村 裕夫

### 「大学の教員等の任期制に関する法律」の施行に関連する要望書

本年6月13日に公布された「大学の教員等の任期制に関する法律」の施行に関連して、以下の諸点を要望する次第であります。

1. 任期付き教員の給与等の処遇の改善について、特段の検討をお願いする。
2. 前項のほか、教育研究条件の整備等、衆議院文教委員会及び参議院文教委員会の附帯決議の各事項について、特段の配慮をお願いする。
3. 助手について、多様な職務に従事している実態にあるので、職務に応じた適切な名称変更の検討をお願いする。
4. 大学によっては、教員の他大学への転入出傾向が顕著であったり、あるいは、いわゆる研究助手が僅少であるなどの状況があるので、流動化を目的として実情に応じて行う教育研究の活性化のための努力についても、同様に適切な評価をされるよう希望する。

平成9年8月11日  
国立大学協会  
会長 井村 裕夫

## 国立大学附属図書館の整備充実に 関する要望

国立大学附属図書館の整備充実につきましては、平素格別のご理解とご配慮を賜っておりますことを深く感謝申し上げます。

近年、学術情報の量の激増と電子媒体の普及により、大学附属図書館の取り扱う資料と業務内容に大きな変化が生じ、図書館はそのあり方に大きな転換を求められています。もとより各大学において創意・工夫により対応を検討すべきところではありますが、制度的・財政的な支援も欠くことができません。

国の財政がきわめて困難な状況にあることは承知いたしておりますが、附属図書館は大学の教育研究活動の主要な基盤であることに鑑み、以下の諸点につきまして引き続き特段のご配慮を賜りますよう要望いたします。

### 記

#### 1. 図書資料購入費、特に学生用図書購入費の増額について

国立大学図書館関係予算のうち、図書資料購入費、特に学生用図書購入費は、約15年間にわたり、学生数の増加傾向に拘わらず横ばいないし減少傾向が続いている。しかし近年では、図書資料の価格の上昇、CD-ROM形態等の電子化資料の増加などにより、各大学とも予算上困難な状況に悩んでいるのが実状である。この状況は、学生のための魅力ある教育環境づくりを重視する観点から、さらに外国人留学生のための設備充実に観点からも特に改善が求められるところである。そこで、図書資料予算、特に学生用図書資料、外国語図書資料などの費目の増額について特段の配慮をいただきたい。

#### 2. 専門的能力をもった図書館職員の確保について

近年の図書館業務の電子化・高度化に伴い、図書館職員には、最新の技術に即応して図書業務をこな

し、機器等を管理し、また、地域社会への貢献、生涯学習への貢献等を含む新しいサービス業務を企画・設計・実現するなど高度の知識・能力が要求されるようになってきている。大学の職員の定員削減が続いている折りから、図書館職員のみについて純増を望むことは事実上不可能であろう。しかし、図書館に研究開発機能を付与し、それに応じたスタッフを配置するとか、ティーチング・アシスタント、リサーチ・アシスタントの配置を可能にするとかの措置をとる余地は残されているように思われ、その線に沿った努力をしている大学も多い。そこで、そのような方向での努力に対する格別の理解と配慮をいただきたい。

#### 3. 共同保存図書館の建設に向けて

日に日に増加する図書資料を収納し適切に保存するスペースの不足は、各大学が共通に抱えている根本的な悩みの一つである。この問題に対して、保存書庫の建設の必要は以前から提起されてきたが、各大学にこれを備えるのが困難であることも理解できる。そこで国立大学図書館協議会では、全国の大学が共同で利用できる共同保存図書館の設置を提案している。このことについては、設置場所や管理主体、運用など、具体的な検討を要する点を未だ多く残しているが、何らかの形で共同保存図書館の建設を目指すことの必要性をご理解いただき、このような解決策が一日も早く実現するよう配慮いただきたい。

以上



## 公開講座

## 京都大学春秋講義（秋季講座）の開講

本学では、財団法人京都大学後援会の協力の下で、平成9年度は創立百周年記念事業としてメインテーマ「知の最前線はいま」とし、下記のとおり「京都大学春秋講義（秋季講座）」を開講します。

本学教職員並びに学生については、各講義とも特別受講枠（無料）30名を設けているので、受講希望者は所属部局の事務担当掛へ申し込んでください。

記

## ☆月曜講義（5回シリーズ）テーマ『国際社会と日本』

開 講 日	講 師	テ ー マ
10月13日	工学研究科教授 内 藤 正 明	地球環境の危機と21世紀の社会像
10月20日	東南アジア研究センター教授 吉 原 久仁夫	東南アジア経済と日本
10月27日	医学研究科教授 中 原 俊 隆	日本と世界の保健医療
11月10日	教育学部教授 白 石 裕	外国人子弟の就学問題
11月17日	法学研究科教授 杉 原 高 嶺	核兵器使用の合法性－国際司法裁判（ICJ）の意見をめぐって－
定 員 150名		
受 講 料 6,000円（全講義を通しての受講料です。）		

## ☆水曜講義

開 講 日	講 師	テ ー マ
10月15日	総合人間学部教授 福 井 勝 義	民族再考－東アフリカにおける民族の生成と相克から－
10月22日	薬学研究科教授 佐 治 英 郎	生きている脳のはたらきを見る
10月29日	文学研究科教授 山 口 知 三	異文化という虚像－ドイツ文学におけるアメリカ像の変遷－
11月12日	工学研究科教授 土 岐 憲 三	地震災害と活断層
11月19日	理学研究科教授 政 池 明	素粒子と宇宙の謎を探る
定 員 各講義 150名		
受 講 料 各講義 1,200円		

○ 会 場 法経第二教室

○ 時 間 午後6時30分～8時30分

○ 受講資格は問わない。

○ 申込み・問合せ先 庶務部研究協力課研究協力掛（内線 2041）

## 京都大学市民講座の開講

本年度の京都大学市民講座は、創立百周年を記念して「知の最前線はいま」を統一テーマとして、来る10月18日、25日、11月8日の各土曜日に広く一般市民を対象とする記念公開講座と市民講座を下記のとおり開講します。

本講座は、財団法人京大会館楽友会の協力の下に、昭和54年以来毎年開かれているもので、本年度は「日本の文化と国土」をサブテーマとして、総合大学の特色を生かして学問の諸領域にわたる講義が行われます。

講義日程 サブテーマ『日本の文化と国土』

開 講 日	テ ー マ	講 師
第1日 10月18日（土） 14：30～17：00	開講のあいさつ	総 長 井 村 裕 夫
	「擬種としての文化」をめぐって	京都大学名誉教授 日 高 敏 隆
	「風土記」に見る日本人の心	京都大学名誉教授 河 合 隼 雄

- 会 場 京都産業会館シルクホール 8階（京都四条烏丸西入 地下鉄「四条駅」下車）
- 受 講 料 無料
- 受講資格 制限はありません。
- 定 員 600名

第2日 10月25日（土） 13：00～16：30	日本の食文化と世界の健康	大学院人間・環境学研究科教授 家 森 幸 男
	日本の借地法借家法	法学研究科教授 前 田 達 明
第3日 11月8日（土） 13：00～16：40	「清貧」と「清富」の間 ー日本的風土の中での漢語ー	文学研究科教授 興 膳 宏
	日本列島の成り立ちと地震	理学研究科教授 尾 池 和 夫
	閉講のあいさつ	理学研究科教授 廣 田 襄

- 会 場 法経第四教室
- 受講定員 400名
- 受 講 料 1,000円（全講義を通しての受講料です。）  
受講料は、受講決定通知を受領後、指定の口座へ振り込むこと。支払後の受講料は返金しない。
- 受講資格 制限はありません。
- 申込方法 往復はがきに受講希望日（記念公開講座及び市民講座の両方又は一方のみ受講いずれも可）住所・氏名・職業・電話番号を記入（返信はがきにも住所・氏名を記入）のうえ、9月15日（月）までに下記の申込み先へ申し込むこと。
- 申込み・問合せ先 庶務部研究協力課研究協力掛（内線 2041）

## 平成 9 年 度 エ ネ ル ギ ー 科 学 研 究 科 公 開 講 座 エ ネ ル ギ ー と 社 会 ・ 環 境 ・ 科 学

大学院エネルギー科学研究科では、来る11月8日、15日の両土曜日に、広く一般市民を対象とする「京都大学エネルギー科学研究科公開講座」を下記のとおり開催します。

### 記

11月8日（土）	「日本刀の科学」	井上 達雄 教授
	「エネルギーをつくるセラミックス」	八尾 健 教授
11月15日（土）	「液体の沸騰」	塩津 正博 教授
	「エネルギーの社会問題と環境問題」	西原 英晃 教授

◆時 間 午後1時～5時

◆会 場 京都市左京区吉田本町 京都大学工学部電気総合館  
(※自家用車での来場はご遠慮下さい。)

◆定 員 80名

◆受 講 料 5,400円 (テキスト代を含め全講義を通しての受講料で消費税を含みます。)

◆申込方法 現金書留または受講料直接持参によりお申し込み下さい。

現金書留の場合は以下のものを同封して下さい。

1. 受講料
2. 住所、氏名、年齢、職業、電話番号を記入した用紙 (複数の人数の申し込みの場合は1人1枚必要。)
3. 返信用封筒 (表側に宛名、郵便番号を記入し、80円切手を貼って下さい。受講証、領収証、会場案内図等をお送りします。)

◆申込期間 10月13日 (月)～10月31日 (金) (※現金書留は必着)

◆持参の場合の受付時間 平日午前10時～午後3時  
(※午後0時～1時を除く)

◆テキストは公開講座会場の受付でお渡しします。

◆問合せ及び申込先：〒606-01 京都市左京区吉田本町  
京都大学工学部等総務課庶務掛 公開講座係  
☎ 075 (753) 5000, 5005 (工学部8号館1階西側)  
Fax 075 (753) 5065

## ○総合情報メディアセンター公開講座 (終了報告)

「教育とコンピュータ」

期間

8月25日 (月)・26日 (火)・27日 (水)

講義・演習科目及び講師

「インターネットと教育」(講義), 「電子メールとWorld Wide Web入門」(演習)

「英語教育におけるコンピュータ利用」(講義)

「英語教育におけるコンピュータ利用」(演習)

「World Wide Webのホームページ作成」(演習)

受講者数 7名

総合情報メディアセンター	助手	辻 斉
総合情報メディアセンター	教授	壇辻正剛
総合情報メディアセンター	助手	早越弘子
総合情報メディアセンター	助手	伊藤 誠



## 話題

## 国立七大学総合体育大会で本学が総合優勝

第36回国立七大学総合体育大会が7月19日（土）の開会式を挟み昨年の12月2日（月）のアイスホッケーを皮切りに8月6日（水）のゴルフまで、35競技種目にわたり北海道大学の主管の下に開催された。

大会の前半から中盤にかけては、前年優勝校の名古屋大学が1位を独走し、本学は2位につけていたが、終盤の各競技種目の健闘により逆転し、本学創立百周年の記念すべき年に優勝杯を手にとることとなった。

大会結果は別表のとおりである。



これで、本学の通算の優勝回数は、9回目となり東京大学と並んだ。また、優勝は、4年ぶりである。

## 第36回国立七大学総合体育大会成績表

競技種目	大学名	北海道大学		東北大学		東京大学		名古屋大学		京都大学		大阪大学		九州大学	
		順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点
アイスホッケー		①	10	③	6	⑦	1	④	4	②	8	⑥	2	⑤	3
航空馬術		—	—	—	—	⑤	1	②	4	①	6	④	2	③	3
少林寺拳法		⑤	2	③	4	⑥	1	②	6	①	8	—	—	④	3
硬式庭球（男子）		③	6	④	4	⑥	2	②	8	⑦	1	①	10	⑤	3
硬式庭球（女子）		⑥	2	②	8	③	6	⑤	3	④	4	①	10	⑦	1
柔道		⑥	2	⑤	3	④	4	①	10	⑦	1	②	8	③	6
柔道		⑤	1.5	②	6	—	—	③	3.5	①	8	③	3.5	⑤	1.5
バスケットボール（男子）		⑦	1	③	6	①	10	②	8	⑤	3	⑥	2	④	4
バスケットボール（女子）		③	6	⑥	2	⑦	1	①	10	②	8	④	4	⑤	3
硬式野球		③	3	②	4	①	6	⑤	1	—	—	—	—	④	2
ソフトテニス（男子）		②	8	⑤	3	⑦	1	①	10	④	4	⑥	2	③	6
ソフトテニス（女子）		①	10	⑦	1	④	4	②	8	⑤	3	③	6	⑥	2
準硬式野球		③	6	②	8	①	10	⑥	2	⑦	1	⑤	3	④	4
体操		⑤	3	②	8	④	4	③	6	⑦	1	①	10	⑥	2
剣道（男子）		④	4	②	8	③	6	⑥	2	⑦	1	⑤	3	①	10
剣道（女子）		③	6	⑥	2	⑦	1	④	4	②	8	⑤	3	①	10
空手		⑤	3	⑦	1	③	6	④	4	①	10	⑥	2	②	8
ヨット		③	6	⑦	1	⑤	3	④	4	②	8	⑥	2	①	10
水泳		②	8	④	4	⑥	2	③	6	①	10	⑦	1	⑤	3
バレーボール（男子）		⑥	2	①	10	②	8	④	4	⑤	3	⑦	1	③	6
バレーボール（女子）		②	8	④	4	⑥	2	①	10	③	6	⑤	3	⑦	1
弓道（男子）		⑤	3	④	4	②	8	⑦	1	⑥	2	③	6	①	10
弓道（女子）		②	8	⑥	2	①	10	⑦	1	⑤	3	④	4	③	6
卓球（男子）		④	4	⑥	2	②	8	①	10	⑦	1	③	6	⑤	3
卓球（女子）		④	4	⑥	2	⑤	3	①	10	②	8	③	6	⑦	1
陸上競技（男子）		⑦	1	④	4	①	10	③	6	②	8	⑥	2	⑤	3
陸上競技（女子）		①	10	③	6	⑥	2	④	4	②	8	⑦	1	⑤	3
ハンドボール		④	4	⑥	2	③	6	②	8	⑤	3	①	10	⑦	1
フェンシング		—	—	③	3	②	4	—	—	①	6	④	2	⑤	1
ホッケー		③	2	—	—	②	3	—	—	—	—	①	4	④	1
自動車		②	8	①	10	④	4	⑥	2	⑤	3	③	6	⑦	1
洋弓		②	6	⑥	1	③	4	—	—	①	8	④	3	⑤	2
バドミントン（男子）		⑥	2	①	10	③	6	⑦	1	⑤	3	②	8	④	4
バドミントン（女子）		①	10	④	4	⑦	1	⑥	2	⑤	3	③	6	②	8
ゴルフ		③	6	②	8	④	4	⑤	3	①	10	⑥	2	⑦	1
総合得点順位		165.5 2位		151 5位		152 4位		165.5 2位		168 1位		143.5 6位		136.5 7位	